

## 会議録

会議の名称	令和7年度 第4回西東京市地域コミュニティあり方検討委員会
開催日時	令和7年12月23日（火曜日） 午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	田無第二庁舎5階 会議室
出席者	委員：渡邊委員長、小松真弓副委員長、小松哲郎委員、神崎委員、石井委員、菊池委員 事務局：河野課長、古川課長補佐、平沼主任、村田主事
議題	地域コミュニティあり方検討委員会報告書について
会議資料	資料1 西東京市地域コミュニティあり方検討委員会報告書（案） 資料2 地域コミュニティあり方検討委員会報告書 意見シート 参考 地域協力ネットワーク会員アンケート集計結果について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>【以下、渡邊委員長にて議事進行】</p> <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局にて「令和7年度 第3回西東京市地域コミュニティあり方検討委員会 会議録（案）」を作成し配布。</li> <li>・委員より異論がなかったため、正式な会議録とすることで全会一致。</li> </ul> <p>2 【議題】地域コミュニティあり方検討委員会報告書について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局 資料1を用いて説明。</li> <li>○委員長 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の説明を受けて、ご意見をいただきたい。</li> </ul> </li> <li>○委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・良い意味で行政らしくなく、検討委員会で議論したことが反映されていて良い。</li> <li>・16ページの「誰もが、近所に信頼できる人がいる地域 しがらみでも孤独でもない新しいつながりのある地域」について、「しがらみ」という言葉はネガティブなイメージがあるので、他に良い言葉がないか検討したい。</li> </ul> </li> <li>○委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・18ページについて、例えば「出会う・関わるコミュニティ」の「参加」という単語が1行目と2行目にかかってしまっている。単語で行が分かれなないようにすると、内容が入ってきやすく読みやすくなる。</li> </ul> </li> <li>○委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・29ページについて、初稿では「中間支援機能を果たします」との文言があったが、地域の課題解決は地域協力ネットワークだけではできない。共に考え、繋ぐことはできるので、今の「つなぎ支える役割を果たします」という文言の方が良い。</li> </ul> </li> <li>○委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・21ページの「フリーライダーを生む構造的な仕組み」の箇所について、祭りに参加するだけの人もいないと、祭りが成立しない。フリーライダーを生むことは一概に弱みとは言えないのではないか。</li> </ul> </li> </ul>	

#### ○副委員長

- ・全体の構成は問題ないと感じる。
- ・市民の視点で、市は後方支援という見方で考えた。
- ・15ページの「誰もが、近所に信頼できる人がいる地域」について、「誰もが」という言葉を障害の有無や国籍に関わらず、市で暮らす、市と関わっている全ての人が対象で、自分もその中に含まれているということが伝わるような言葉にしたい。
- ・18ページ「出会う・関わるコミュニティ」の「気軽に楽しく参加しやすい環境をつくります」について、「行政は後方支援」という立ち位置を考えると、「気軽に楽しく参加し交流できる機会を創出します」の方が良い。「多くの人が」という言葉も自分もその中に含まれているということが伝わる言葉にしたい。
- ・22ページの「自治会・町内会のめざすべきもの」について、偉そうに感じるので、「自治会・町内会のめざすもの」の方が良い。
- ・23ページの「①参加のハードルを下げみんなを巻き込む運営へ」について、楽しく気軽に参加するには、活動を知ったり、知り直したりする必要がある。「活動を知る機会の創出」や「活動を知るために参加できる事業」などの言葉を追加できたら良い。
- ・23ページの「③みんなに出番と居場所を」について、地域とつながるということは、まず知ることから始まって、その後につながるの、「ご近所の人と人がつながるような」という文言は「ご近所の人と人が知り合い、つながるような」の方が良い。
- ・32ページの「指針としてのわかりやすさ、読みやすさに配慮したデザイン、内容とすること」について、「地域に関わる全ての人にとって、指針としてのわかりやすさ、読みやすさに配慮したデザイン、内容とすること」の方が良い。誰にとっての指針なのか、伝えたい人は誰なのかを考えた方が良い。

#### ○委員

- ・18ページの中央部の矢印については、それぞれの4つの方向全てに矢印が向くようにした方が良い。

#### ○委員長

- ・14ページの「②地域に出番と居場所のある暮らし」が目指すべき状態を表しているのに対して、「①ご近所がつながることからはじめよう」「③人と地域の関係性をリデザインする」は手段になっている。地域コミュニティのあり方の方向性を示すなら、②のような10年後の理想の地域像を示した方が良い。
- ・16ページの「地域に関わるひとを増やす」は「地域に関わるひとが増える」にした方が「誰もが、近所に信頼できる人がいる地域 しがらみでも孤独でもない新しいつながりのある地域」に繋がっていく。
- ・18ページ「育つ・育てるコミュニティ」の「スキルや関わり方を学び」とはどういうことなのか。具体的な表現を入れた方が分かりやすい。
- ・19ページ「概ね小学校通学区域」の役割の欄の「学校」という文言は、「小学校」にした方が分かりやすい。
- ・25ページについて、課題だけではなく、現状や成果を併記した方が良い。

#### ○委員

- ・13ページの「ネイバーフッド・コミュニティ」の内容は、末尾の「がネイバーフッドデザイン」の文言を削除してはどうか。他と比べて、文字数が多いので、同じような表現にした方が良い。

#### ○委員長

- ・15ページの「地域コミュニティの将来像」の内容と16ページの「地域コミュニティの将来像」のイメージ図の表現が少しずれているため、整理が必要。
- ・16ページの「しがらみでも孤独でもない新しいつながりのある地域」という部分について議論していく。

#### ○委員

- ・リデザインのイメージは、「作り直す」や「再構築」という意味なのか。

#### ○委員長

- ・リデザインを見た時に、今までのつながりではいけないのかと考えた。役割・出番と「しがらみ」は紙一重になっていたりするので、人の捉え方によって違うと考える。

○委員長

- ・15ページ、16ページのオレンジ色の枠囲みの箇所の文章が違うのはなぜか。

○委員

- ・16ページの「しがらみでも孤独でもない新しいつながりのある地域」を別の文章にしたうえで、15ページのオレンジ色の枠囲みの箇所にも同様の文章を入れるか、それとも別の文章を入れるのか。

○委員

- ・16ページの「地域に関わるひとを増やす」「地域に愛着を持つ」「地域につながりが増える」の3つが循環すれば、「地域に主体的に関わる人が増える」がゴールとなると考える。

○副委員長

- ・15ページの「誰もが、近所に信頼できる人がいる地域 地域や人とのかかわりを通じて、愛着を持てる地域 我がまちのために動ける人がいる地域」と16ページの「誰もが、近所に信頼できる人がいる地域 しがらみでも孤独でもない新しいつながりのある地域」を統一した方がいいのではないか。

○委員長

- ・15ページの「我がまちのために動ける人がいる地域」を16ページの「しがらみでも孤独でもない新しいつながりのある地域」と入れ替えるのはどうか。しかし、「しがらみ」を削除しているものか。

○委員

- ・しがらみは悪いことなのか。
- ・例えば「地縁に頼らない新しいつながり」などはどうか。

○委員

- ・居心地がいい団体や居場所をどんどん市民が作っていき、そういった場所が多くできて、どこかに居場所を見つけられると良い。

○副委員長

- ・地縁に「とらわれる」という表現が重々しく感じ、想像しにくい。今まで地縁とは無縁で生活してきたので、「とらわれる」という表現に違和感を覚える。

○委員長

- ・「地縁にとらわれない」よりは「しがらみにとらわれない」という表現の方が伝わりやすい。

○委員長

- ・ここでまとめると、15ページの「地域コミュニティの将来像」のオレンジ色の枠囲みの3点の文章は残し、16ページの「誰もが、近所に信頼できる人がいる地域」を削除し、しがらみにとらわれない新しいつながりのある地域のみ表記する。
- ・16ページの「地域コミュニティの将来像」のサイクルを循環させていくことで、そのイメージを実現することにつながる。
- ・16ページに示されている4つのサイクルを、「地域に愛着を持つ」「地域に主体的に関わる人が増える」「地域につながりが増える」の3つのサイクルにまとめ、それを循環させる中で「地域に関わる人を増やす」という目標に到達する、という意見もある。
- ・人が増えることで、地域に愛着を持つ人が増える。また、主体的に関わる人が増えることで、地域のつながりがさらに深まる。そういった4つのサイクルで循環していくのではないか。

○委員長

- ・最終案は事務局で整理し、委員に確認する。

○事務局

- ・今後のスケジュールを説明。

閉会